

I 調査結果の概要

1 食肉流通の動向

(1) 豚

ア と畜頭数及び枝肉生産量

全国の豚のと畜頭数は1,631万9千頭、枝肉生産量は127万8,803 tで、前年に比べそれぞれ0.7%、0.4%減少した（表1）。

表1 豚のと畜頭数及び枝肉生産量の推移（全国）

区 分	と畜頭数	枝肉生産量
	千頭	t
平成30年	16,429	1,284,145
令和元年	16,319	1,278,803
対前年比 (%)	99.3	99.6

注：対前年比は、原数より算出している（以下各表において同じ。）。

イ 取引成立頭数及び卸売価格

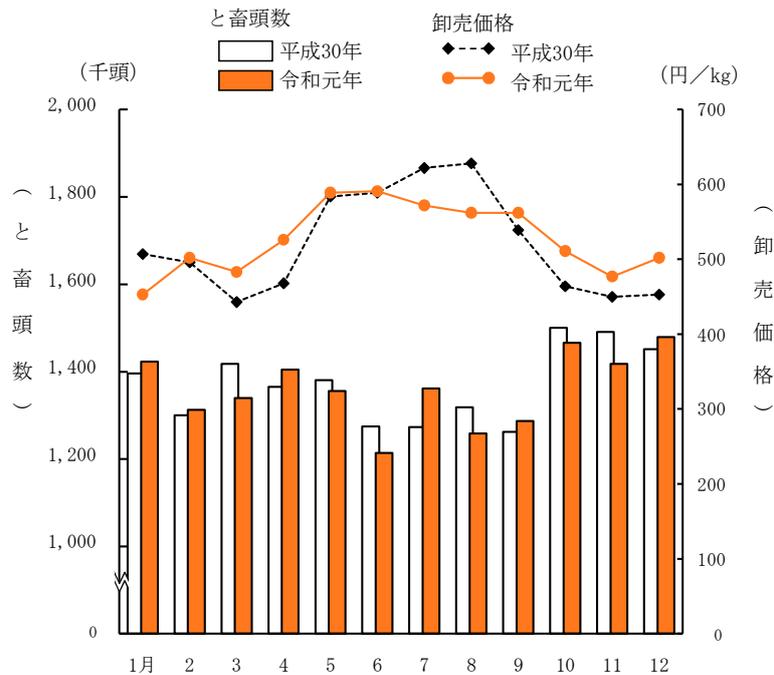
豚の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は12.3%で、前年に比べ0.6ポイント低下した（表2）。

また、月別の卸売価格（極上・上規格）は、1月、7月及び8月で前年を下回ったものの、その他の月は前年を上回って推移した（図1）。

表2 豚の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場における取引成立頭数及び割合

年 次	全国と畜頭数	食肉卸売市場 取引成立頭数	割 合
	千頭	千頭	%
平成30年	16,429	2,120	12.9
令和元年	16,319	2,001	12.3

図1 豚の月別と畜頭数及び卸売価格（極上・上規格）（全国）



(2) 牛

ア 成牛のと畜頭数及び枝肉生産量

全国の成牛のと畜頭数は103万9千頭、枝肉生産量は47万363 tで、前年に比べそれぞれ1.2%、0.9%減少した（表3）。

表3 成牛のと畜頭数及び枝肉生産量（全国）

区 分	と畜頭数	枝肉生産量
	千頭	t
平成30年	1,052	474,817
令和元年	1,039	470,363
対前年比（%）	98.8	99.1

イ 成牛の取引成立頭数及び卸売価格

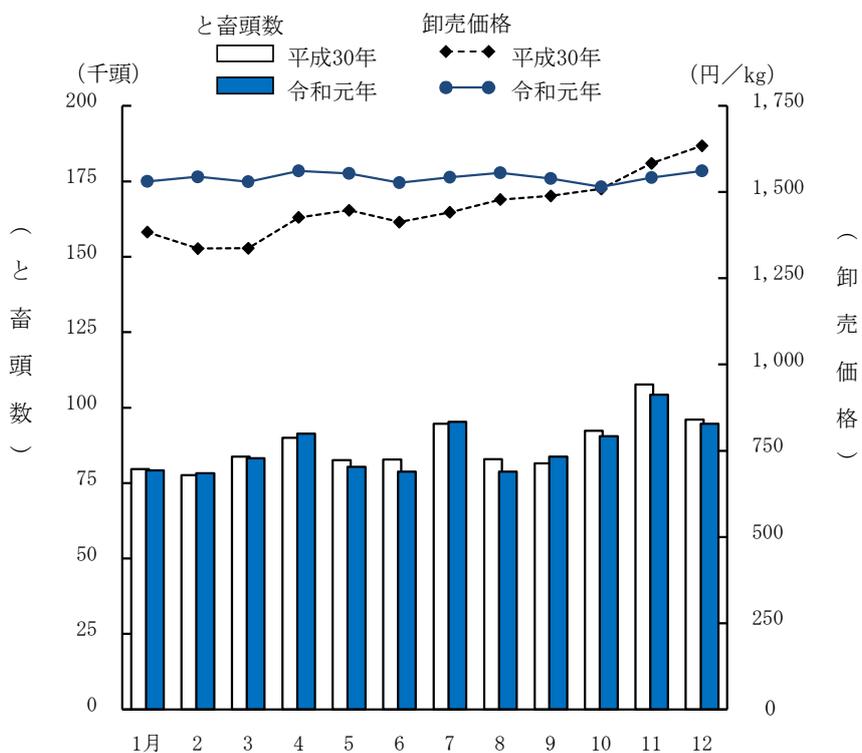
成牛の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は31.5%で、前年に比べ0.7ポイント低下した（表4）。

また、月別の卸売価格（去勢B-3・2規格）は、11月及び12月で前年を下回ったものの、その他の月は上回って推移した（図2）。

表4 成牛の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場における取引成立頭数及び割合

年 次	全国と畜頭数	食肉卸売市場	割 合
		取引成立頭数	
	千頭	千頭	%
平成30年	1,052	338	32.2
令和元年	1,039	327	31.5

図2 成牛の月別と畜頭数及び卸売価格（去勢B-3・2規格）（全国）



2 鶏卵流通の動向

鶏卵生産量は264万tで、前年に比べ0.5%増加した（図3、表5）。

都道府県別の構成割合をみると、茨城県が8.9%と最も高く、次いで鹿児島県が7.1%、千葉県が6.3%、岡山県が5.2%の順となっている（表5）。

図3 鶏卵生産量の推移（全国）

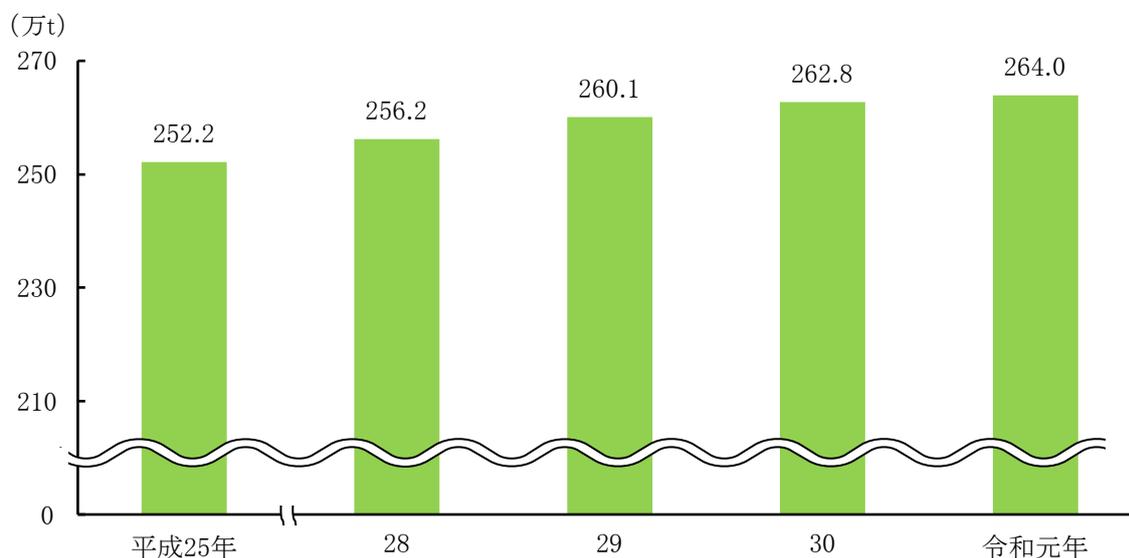


表5 鶏卵生産量（全国及び上位10道県）

区 分	実 数		対前年比	令和元年 構 成 比
	平成30年	令和元年		
	千t	千t	%	%
全 国	2,628	2,640	100.5	100.0
うち 茨 城 県	224	234	104.4	8.9
鹿 児 島 県	182	188	103.2	7.1
千 葉 県	168	166	99.2	6.3
岡 山 県	130	136	105.0	5.2
広 島 県	130	135	104.4	5.1
栃 木 県	94	107	113.5	4.1
青 森 県	107	105	98.2	4.0
愛 知 県	108	105	96.9	4.0
北 海 道	103	103	99.6	3.9
三 重 県	97	99	102.2	3.8
そ の 他	1,284	1,260	98.1	47.7

注：1 統計数値については、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

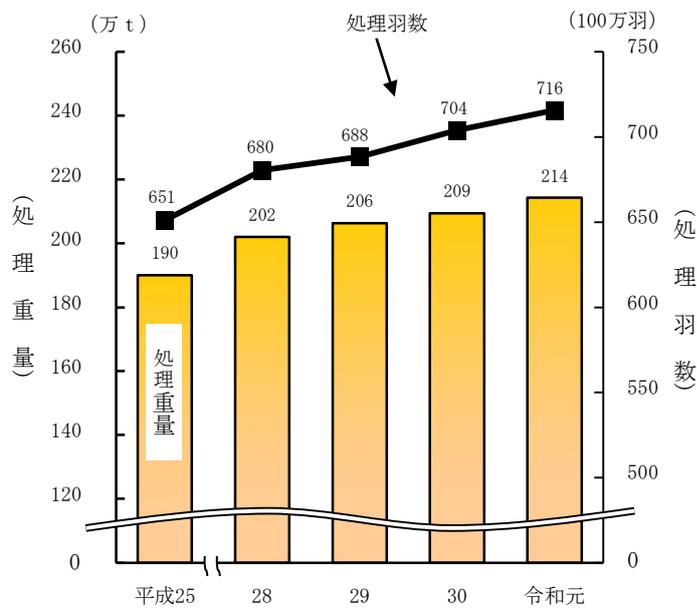
2 構成比は、原数より算出している。

3 食鳥流通の動向

食鳥の処理羽数は、肉用若鶏が7億1,565万6千羽で前年に比べ1.7%増加したが、廃鶏が8,452万3千羽、その他の肉用鶏が240万1千羽で、前年に比べそれぞれ0.1%、5.4%減少した。

また、処理重量は、肉用若鶏が214万3,064 tで前年に比べ2.3%増加したが、廃鶏が14万7,738 t、その他の肉用鶏が7,075 tで、前年に比べそれぞれ0.1%、4.7%減少した（図4、表6）。

図4 肉用若鶏の処理羽数及び処理重量の推移（全国）



注：「処理羽数」及び「処理重量」とは、食鳥処理場が食鶏を食用に供する目的で処理した生体の羽数及び重量をいう。
 なお、平成27年調査から、調査の対象を全ての食鳥処理場から年間の食鳥処理羽数30万羽を超える処理場に変更した（以下同じ。）。
 このため、平成25年の数値については、年間の食鳥処理羽数30万羽を超える食鳥処理場を対象に、新たに集計した結果である。

表6 食鳥処理量（年間処理羽数30万羽を超える食鳥処理場）

区分	単位	食鳥の種類		
		肉用若鶏	廃鶏	その他の肉用鶏
処理羽数（生体）				
平成30年	千羽	703,814	84,604	2,539
令和元年	〃	715,656	84,523	2,401
対前年比	%	101.7	99.9	94.6
処理重量（生体）				
平成30年	t	2,094,261	147,819	7,425
令和元年	〃	2,143,064	147,738	7,075
対前年比	%	102.3	99.9	95.3